

2020年2月27日

スタンダードチャータード PLC – 2019年度および同年度第4四半期の業績

スタンダードチャータード PLC(以下、「当行グループ」といいます。)は2020年2月27日付で、2019年12月31日に終了した年度および同年度第4四半期の業績を発表しました。別段の注記がない限り、すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されており、比較の対象は、報告通貨ベースで2018年度通期としています。特別要因調整後の業績に含まれていない再編関連コストおよびその他の項目の内容は、アニュアルレポートのP59に記載しています。

当期決算について、当行グループ最高経営責任者のビル・ウィンターズは以下のように述べています。

「2019年度中、いっそう厳しさを増す外部環境にもかかわらず、当行グループはコントロール可能なものに対する規律を維持し、他行と差別化できる部分に鋭く注力することによって、特別要因調整後の利益を8%成長させ、1株当たり利益を23%改善することができました。当行グループは、適切な市場において、正しい戦略を指針とし、ビジネスを推進し成功を実現するという目的に向けて力を結集しています。私たちは、長く続く成功に向けての地歩を固めたと確信しています。」

戦略的優先事項に関する2019年度中の進捗状況

- **拠点網の活用:** 当行グループの海外ネットワークを活用し、事業法人および機関投資家のお客様からの収益は6%増加しました。
- **富裕層ビジネスの拡大:** プレミアム、プライオリティ、プライベートバンキングのお客様とのお取引からの収益も6%増加しました。
- **低収益市場の最適化:** インド、インドネシア、韓国、UAEにおける税引前利益の合計は10%改善しました。
- **生産性の向上:** 正社員1人当たりの収益は5%増加しており、香港の流動性ハブも利益を生み出しています。
- **デジタルによる変革と破壊(disrupt):** 香港でバーチャル銀行のベータテストを実施、アフリカ9市場でデジタルバンキングを開始しました。
- **サステナビリティの推進:** 世界的な持続可能性に向けた取組みを主導するため、果敢かつ意欲的な行動を行っています。

2019年度における財務の枠組みの改善状況

- **RoTE(有形資本利益率)**は130bps上昇して6.4%となりました。
 - 特別要因調整後の税引前利益は8%増益の42億ドルとなりました。
 - 法定ベースの税引前利益は46%増益の37億ドルとなりました。
- **収益**は2%増の153億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは4%増となりました。
 - DVA(信用評価調整)の1億7,700万ドルの減少を含めず、為替変動の影響を除いたベースでは、4%の増収となりました。
 - 第4四半期の収益は前年同期比横ばいとなり、為替変動の影響を除いたベースでは1%の増収、DVAの1億1,800万ドルの減少を含めなければ4%の増収となりました。
 - 第4四半期の好調な収益動向は2020年1月に入っても続きました。
- **コスト(英国銀行税を除く)**は1%減の101億ドル、為替変動の影響を除くと1%の増加となりました。
 - 収益の伸び率が費用の増加率を3%上回り、費用収益比率(英国銀行税を除く)は2%改善し66%となりました。
- **資本**
 - **普通株式等 Tier1 比率**は19年第3四半期から28bps上昇し13.8%と、13~14%の範囲内にとどまりました。
 - 5億ドルの**自社株買い**によって、CET1比率は約20bps低下することになります。
 - 普通株式の1株当たり最終**配当金**が提案通り20セント支払われれば、通期では29%増配の27セントとなります。
 - **リスク加重資産(RWA)**は2,640億ドルと前年同期比60億ドル(2%)増加しましたが、第3四半期との比較では50億ドルの減少となりました。

2019年度におけるその他の財務ハイライト

- **引当金考慮前の営業収益**は8%増の49億ドルとなりました。
- **1株当たり利益**は14セント(23%)増の75.7セントとなりました。
- **資産の質**は引き続き安定しており、信用減損額は1億6,600万ドル増加しましたが、引き続き過去にない低水準にあります。

- マクロ経済変数の悪化の影響を含め、ステージ 1 および ステージ 2 の信用減損額は 2 億 7,500 万ドル増加しました。
- ステージ 3 の信用減損額は 1 億 900 万ドル減少し、ステージ 3 の貸付金は 50bps 減少して全体の 2.7%と、2014 年以来の低水準となりました。
- **平均有利子資産**は 4%増の 4,950 億ドル、総利回りは 16bps増の 3.34%となりました。
- **平均有利子負債**は 3%増の 4,450 億ドル、支払金利は 27bps増の 1.92%となりました。
- **純資金利ざや**は 7bps 低下の 1.62%となりました。

見通し

2019年第4四半期の好調な収益動向は2020年に入っても続きましたが、金利の低下、世界の経済成長の鈍化、香港経済の悪化、最近の新型コロナウイルスの流行の影響により、2020年の収益増加率は、当行グループの中期的な目標値である5~7%を下回る可能性が高いと思われます。こうした逆風は一過性のものと見込まれますが、RoTEの目標値である10%の達成には、従来 of 想定よりも時間がかかると考えます。

当行グループは、2015年以降毎年RoTEを改善してきましたが、費用の増加率を上回る収益の伸びと余剰資本の株主還元を組み合わせ、2020年も改善を続けるよう努力します。取締役会はまもなく始まる最大5億ドル相当の株式の取得と消却を承認し、Permataの売却が完了した後、さらなる資本還元を行う可能性を検討します。

スタンダードチャータードPLC — 損益計算書

2019年度

	2019年度 (百万米ドル)	2018年度 (百万米ドル)	増減(%) ⁶
特別要因調整後ベースの業績			
営業収益	15,271	14,968	2
営業費用(英国銀行税を含む)	(10,409)	(10,464)	1
信用減損	(906)	(740)	(22)
その他減損費用	(38)	(148)	74
関係会社利益	254	241	5
税引前利益	4,172	3,857	8
普通株主に帰すべき(損)益 ¹	2,466	2,031	21
RoTE(有形資本利益率)(%)	6.4	5.1	130bps
費用収益比率(%) (英国銀行税を除く)	65.9	67.7	180bps
法定ベースの業績			
営業収益	15,417	14,789	4
営業費用	(10,933)	(11,647)	6
信用減損	(908)	(653)	(39)
営業権(のれん代)減損	(27)	-	nm
その他減損費用	(136)	(182)	25
関係会社利益	300	241	24
税引前利益	3,713	2,548	46
税金	(1,373)	(1,439)	5
当期利益	2,340	1,109	111
親会社株主に帰すべき(損)益	2,303	1,054	119
普通株主に帰すべき(損)益 ¹	1,855	618	200
RoTE(有形資本利益率)(%)	4.8	1.6	325bps
費用収益比率(%) (英国銀行税を含む)	70.9	78.8	784bps
バランスシートと資本			
総資産	720,398	688,762	5
総資本	50,661	50,352	1
普通株主に帰すべき有形株主資本 ¹	38,574	39,613	(3)
顧客向け貸付金その他の金銭債権	268,523	256,557	5
顧客口座	405,357	391,013	4
リスク加重資産	264,090	258,297	2
総資本	55,965	55,696	-
純資金利ざや(%) (調整後)	1.62	1.69	(7)bps
預貸率(%) ²	64.2	63.1	115
流動性カバレッジ率(%)	144	154	(10)
普通株式等Tier 1比率(%)	13.8	14.2	(40)
総資本(%)	21.2	21.6	(40)
英国レバレッジ率(%)	5.2	5.6	(40)
普通株式1株当たりの情報			
	セント	セント	セント
1株当たり利益—特別要因調整後ベース ³	75.7	61.4	14.3
—法定ベース ³	57.0	18.7	38.3
1株当たり普通株配当 ⁴	27	21	6
1株当たり純資産額 ⁵	1,358	1,319	39
1株当たり純有形固定資産額 ⁵	1,192	1,168	25
期末時点の普通株式数(百万)	3,191	3,307	(3)

¹ 普通株主に帰すべき(損)益は、非累積償還優先株式、および株式に分類されるその他Tier 1証券の保有者に支払われる配当金控除後の金額です。

² 本比率を算出するにあたって、顧客向け貸付金その他の金銭債権の総額からは、リバース・レポ契約その他の類似の担保付貸出金、および、ストレス時に返済可能と確認された中央銀行に保有された承認済みの残高を除いており、一方で、「損失を通じて公正価値で(FVPL)」保有される顧客向け貸付金その他の金銭債権を含んでいます。総顧客口座は、FVPLで保有される顧客口座を含みます。

³ 特別要因調整後ベースまたは法定ベースの利益を基本的加重平均株式数で割った数値です。

⁴ 提案されている1株当たり普通株式配当金です。

⁵ 期末時点の純資産額、純有形固定資産額および株式数により算出した数値です。

⁶ 増減は改善(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加(減少)を示します。

スタンダードチャータードPLC –スタンダードチャータードグループ最高財務責任者(CFO)のレビュー

「心強い、回復力の強い実績」

業績サマリー

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 (%)	為替変動の影 響を除いた 増減 ² (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 (%)	為替変動の影 響を除いた 増減 ² (%)
純金利収入 ¹	1,899	2,029	(6)		1,937	(2)	7,698	7,840	(2)	
その他の収入 ¹	1,698	1,566	8		2,041	(17)	7,573	7,128	6	
特別要因調整後の営業収益	3,597	3,595	-	1	3,978	(10)	15,271	14,968	2	4
その他の営業費用	(2,592)	(2,512)	(3)	(4)	(2,501)	(4)	(10,062)	(10,140)	1	(1)
英国銀行税	(347)	(324)	(7)		-	nm ³	(347)	(324)	(7)	
特別要因調整後の営業費用	(2,939)	(2,836)	(4)	(4)	(2,501)	(18)	(10,409)	(10,464)	1	(2)
クレジットコスト・税引前の特別要因調整後										
営業利益	658	759	(13)	(12)	1,477	(55)	4,862	4,504	8	10
信用減損	(373)	(332)	(12)		(279)	(34)	(906)	(740)	(22)	
その他減損費用	(12)	(21)	43		(5)	(140)	(38)	(148)	74	
関係会社利益	52	26	100		45	16	254	241	5	
特別要因調整後の税引前利益	325	432	(25)	(24)	1,238	(74)	4,172	3,857	8	10
規制関連引当金	-	(900)	100		(22)	100	(226)	(900)	75	
再編関連コスト	(117)	(392)	70		(123)	5	(254)	(478)	47	
その他の項目	(14)	-	nm ³		12	nm ³	21	69	(70)	
法定ベースの税引前(損)益	194	(860)	123	123	1,105	(82)	3,713	2,548	46	49
税金	(122)	(376)	68		(333)	63	(1,373)	(1,439)	5	
当期(損)益	72	(1,236)	106	106	772	(91)	2,340	1,109	111	113
純資金利ざや(%) ¹	1.54	1.72			1.61		1.62	1.69		
特別要因調整後のRoTE(有形資本利益率) (%)	(0.1)	(1.9)			8.9		6.4	5.1		
特別要因調整後の1株当たり利益(セント)	(0.4)	(5.6)			26.6		75.7	61.4		
法定ベースのRoTE(有形資本利益率)(%)	(1.3)	(14.5)			7.5		4.8	1.6		
法定ベースの1株当たり(損)益(セント)	(3.9)	(43.3)			22.5		57.0	18.7		

1 スタンダードチャータードグループは、純金利収入、純売買収益および純資金利ざやに関する会計方針を変更しました。過去の数値は修正再表示済み。アニュアルレポートの財務諸表注記1をご参照ください。

2 当期の機能通貨のレートに基づく、両期間の同一条件のもとでの為替レートの比較

3 僅少

当行グループは、いくつかの最も大きな拠点市場に影響を及ぼした地政学的およびマクロ経済的な課題が混在する独特の状況にもかかわらず、2019年度に堅調な業績を達成しました。収益はコストを上回るペースで成長し、収益性とRoTE(有形資本利益率)は改善し、資本と流動性の水準は依然として高く、バランスシートは拡大しています。

以下のコメントはすべて、別段の注記がない限り、特別要因調整後ベースで記載しており、比較の対象は、報告通貨ベースで、2018年度通年の数値と比較しています。法定ベースと特別要因調整後ベースの数字の完全な比較は、アニュアルレポートのP59に記載しています。

- **営業収益**は2%、為替変動の影響を除くと4%増加しました。
- **純金利収入**は、純資金利ざやの縮小が取引高の増加の影響を相殺し、2%の減少となりました。
- **その他の収入**は6%増加し、特にファイナンシャルマーケットが好調でした。
- コストの厳格な管理によって収益の伸び率が費用の伸び率を3%上回り、英国銀行税を除く**営業費用**は1%減少、為替変動の影響を除くと1%増加しました。費用収益比率(英国銀行税を除く)は2パーセンテージ・ポイント改善し66%となりました。当行グループはこれまでと同様に、費用の伸び率をインフレ率未満に抑え、これを上回る収益の伸び率を達成することを目指す一方で、引き続き戦略的優先事項に投資します。**英国銀行税**は2,300万ドル増の3億4,700万ドルとなりました。

- **信用減損額**は1億6,600万ドル増加し、9億600万ドルとなりました。これは主にステージ1とステージ2のクレジットコストが2億7,500万ドル増加したことによるもので、この増加の約半分は、下半期の香港のGDP予想の下方修正を含む、マクロ経済変数の悪化に関連しています。ステージ3のクレジットコストは、第4四半期にASEAN・南アジアの単一顧客のエクスポージャーに関連して1億4,100万ドルが計上されたにもかかわらず、通年では1億900万ドルの減少となりました。9億600万ドルの信用減損額は信用損失率27bps(2018年度は21bps)に相当し、引き続き、過去に例のないほどの低水準にあります。
- **その他減損費用**は、当行グループが船舶リース事業からの撤退を決定し、関係する減損費用が再編関連コストとして計上されるようになり特別要因調整後の業績から除外されたため、1億1,000万ドル減少し3,800万ドルとなりました。
- **関係会社利益**は5%増加しました。China Bohai Bankは好業績が続いているものの、PT Bank Permata Tbkの利益に対する当行グループの持分が特別要因調整後の業績から除外されたことにより、一部相殺されました。
- **税引前利益**は8%、為替変動の影響を除くと10%の改善をみせました。再編関連コスト、規制関連引当金およびその他の項目は、8億5,000万ドル減少して4億5,900万ドルとなりました。これは主に規制関連引当金の減少によるものです。以前開示した、英国および米国における過去の制裁および金融犯罪の統制に関する問題に対する調査の解決には、10億8,600万ドルの罰金が伴い、このうち1億8,600万ドルは今年度に引き当てられたものです。これらの項目を含めると、法定ベースの税引前利益は46%の増加となりました。
- **税金**は法定ベースで13億7,300万ドルと、中華圏・北アジア地域に資本と流動性のハブを創設するための法人構造の変更に伴い発生したキャピタルゲイン税が1億7,900万ドル含まれています。特別要因調整後の実効税率は29.3%で、税率の低い市場からの利益の割合が高まり、控除できない費用が減少したことを反映して、5.3パーセンテージ・ポイント低下しました。
- **特別要因調整後のRoTE(有形資本利益率)**は、10億ドル相当の株式買戻しプログラムの完了に伴う特別要因調整後利益の増加と有形資本の減少を反映して、130bps改善して6.4%となりました。
- **特別要因調整後の1株当たり基礎利益(EPS)**は23%増加し、法定ベースEPSは3倍となりました。
- 取締役会が提案した**普通株最終配当金**は1株当たり20セントで、通期配当金は6セント(29%)増の27セントとなります。

プロダクト別営業収益

	19年 第4四半期 (百万ドル)	18年 第4四半期 (百万ドル)	増減 (%)	19年 第3四半期 (百万ドル)	増減 (%)	19年度 (百万ドル)	18年度 (百万ドル)	増減 (%)
トランザクションバンキング	921	942	(2)	976	(6)	3,849	3,718	4
トレード	259	257	1	282	(8)	1,100	1,123	(2)
キャッシュマネジメント	577	604	(4)	606	(5)	2,406	2,262	6
セキュリティーズサービス	85	81	5	88	(3)	343	333	3
フィナンシャルマーケット	631	580	9	789	(20)	2,916	2,612	12
外国為替	264	232	14	261	1	1,128	1,001	13
金利	163	63	159	176	(7)	696	555	25
コモディティ	37	50	(26)	39	(5)	165	192	(14)
クレジットおよび資本市場	125	83	51	167	(25)	577	324	78
キャピタル・ストラクチャリング・ディストリビューション・グループ	86	91	(5)	87	(1)	329	309	6
DVA(信用評価調整)	(72)	46	nm ³	14	nm ³	(100)	77	nm ³
その他の金融市場	28	15	87	45	(38)	121	154	(21)
コーポレートファイナンス ^{1,2}	328	370	(11)	281	17	1,143	1,186	(4)
レンディング・ポートフォリオ管理 ²	202	181	12	204	(1)	792	755	5
ウェルスマネジメント	415	343	21	488	(15)	1,878	1,799	4
リテール商品	957	925	3	971	(1)	3,849	3,750	3
カード・個人ローン・無担保ローン	311	294	6	315	(1)	1,251	1,310	(5)
預金	483	481	-	508	(5)	1,982	1,782	11
住宅ローン・自動車ローン	129	127	2	123	5	508	573	(11)
その他のリテール商品	34	23	48	25	36	108	85	27
財務	196	253	(23)	335	(41)	1,090	1,223	(11)
その他	(53)	1	nm ³	(66)	20	(246)	(75)	nm ³
特別要因調整後の総営業収益	3,597	3,595	-	3,978	(10)	15,271	14,968	2

1 当行グループは2018年12月に船舶オペレーティングリース事業からの撤退を決定し、以後の損益は、再編関連コストとして計上されます。過去の数値は修正再表示されていません。

2 コーポレートファイナンスとレンディング・ポートフォリオ管理の間で、いくつかのプロダクトチームの再編が行われました。過去の数値は修正再表示されています。

3 僅少

トランザクションバンキングの収益は、利ざやの改善と取引高の増加を背景に、キャッシュマネジメントが好調に推移し4%の伸びを示しました。セキュリティーズサービスは増収となりましたが、トレードの収益の2%の減少によって相殺されました。

フィナンシャルマーケットの収益は、市場のボラティリティ、およびお客様によるヘッジと投資活動の増加によって、12%増加しました。クレジットおよび資本市場と金利は高い二桁成長、外国為替も二桁台の成長を示しましたが、DVA(信用評価調整)の1億7,700万ドルのマイナス(うち1億1,800万ドルのマイナスは第4四半期に発生)によって一部相殺されました。

コーポレートファイナンスの収益は4%減少しましたが、これは当行グループが船舶リース事業から撤退し、関連する収益が現在再編関連コストに計上され、特別要因調整後の数字から除外されたことが影響しています。この影響を除けば、コーポレートファイナンスの収益は2%増となりました。

レンディング・ポートフォリオ管理の収益は、法人向けローンの利ざやの拡大と取引高の増加に伴って5%増加しました。

ウェルスマネジメントの収益は、市場条件がより厳しくなったにもかかわらず、主に外国為替、債券、仕組商品の伸びにより、4%の増益となりました。

リテール商品の収益は、3%、為替変動の影響を除くと5%の伸びを示しました。利ざやの改善と金額の増加を背景に預金からの収益の増加が続きましたが、住宅ローンやカード・個人ローンの利ざや圧縮によって、一部相殺されました。

トレジャリーの収益は、トレジャリーマーケットポートフォリオ内の金利変動の影響により、ヘッジの非有効性が1億2,200万ドル改善したことによって一部相殺されたものの、11%の減少となりました。

その他のプロダクトの収益が2億4,600万ドルのマイナスとなった要因には、IFRS第16号の適用の影響を反映した資金調達コストの増加が含まれます。

顧客セグメント別営業収益

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 (%)
法人営業部門	375	495	(24)	589	(36)	2,318	2,072	12
リテールバンキング部門	167	142	18	298	(44)	1,083	1,033	5
コマーシャルバンキング部門	44	13	nm ¹	118	(63)	448	224	100
プライベートバンキング部門	(3)	(9)	67	(3)	-	94	(14)	nm ¹
その他の項目(セグメント)	(258)	(209)	(23)	236	nm ¹	229	542	(58)
特別要因調整後の税引前利益	325	432	(25)	1,238	(74)	4,172	3,857	8
中華圏・北アジア	493	515	(4)	610	(19)	2,432	2,369	3
ASEAN・南アジア	23	116	(80)	242	(90)	1,025	970	6
アフリカ・中東	96	41	134	147	(35)	684	532	29
ヨーロッパ・米州	82	52	58	62	32	157	154	2
その他の項目(地域)	(369)	(292)	(26)	177	nm ¹	(126)	(168)	25
特別要因調整後の税引前利益	325	432	(25)	1,238	(74)	4,172	3,857	8

1 僅少

法人営業部門は利益を12%改善させ、顧客セグメントとしては、当行グループ全体の税引前利益に最も大きく寄与しました。コマーシャルバンキング部門の利益は倍増し、リテールバンキング部門は5%の伸びを示しました。プライベートバンキング部門は、2018年の営業損失1,400万ドルから回復し、9,400万ドルの利益を計上しました。顧客セグメントの収益性は改善しましたが、その一部は、負債に対する内部支払利子の上昇と単発的な流動性の要件によるトレジャリー収益の減少を原因としてその他の項目(セグメント)が58%の減益となったことにより、相殺されました。

当行グループ全体の税引前利益に占める地域別の寄与度が最も大きかったのは中華圏・北アジアで、利益は3%増加しました。アフリカ・中東は29%の増益を示し、最も急速な成長を遂げた地域となりました。ASEAN・南アジアでは6%の増益、ヨーロッパ・米州では2%の増益となりました。その他の項目(地域)の損失は、対外債務コストの増加がヘッジの非有効性の好転によって相殺され、内部資本コストが増加し、4,200万ドル減の1億2,600万ドルとなりました。

調整後純金利収入と利ざや

	19年	修正再表示	増減 (%)	修正再表示	増減 ² %	19年度	修正再表示	増減 (%)
	第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)		19年 第3四半期 (百万米ドル)		(百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	
調整後純金利収入	1,978	2,079	(5)	2,025	(2)	8,007	8,032	-
平均有利子資産	508,001	479,496	6	499,260	2	494,756	476,114	4
平均有利子負債	457,413	424,461	8	451,579	1	444,595	430,167	3
総利回り	3.19	3.38	(19)	3.3	(11)	3.34	3.18	16
支払金利(%) ³	1.83	1.87	(4)	1.87	(4)	1.92	1.65	27
純利回り(%) ³	1.36	1.51	(15)	1.43	(7)	1.42	1.53	(11)
純資金利ざや(%) ^{3,4,5}	1.54	1.72	(18)	1.61	(7)	1.62	1.69	(7)

1 当行グループは、純金利収入および、純売買収益の会計方針を変更しました。過去の数字は修正再表示されています。財務諸表注記1をご参照ください。

2 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産および債務については増加／(減少)を示します。

3 増減は二期の間の差をパーセントでなくベースポイント(bps)で表示しています。

4 調整後純金利収入を平均有利子資産で割った数値(年率換算)です。

5 戦略報告書の代替的業績評価指標の定義に従い純資金利ざやとして修正再表示されています。

当行グループは、銀行勘定の特別要因調整後の業績をより適切に反映させるため、純金利収入の会計方針および純資金利ざやの計上基準を変更しました。詳細については、アニュアルレポートの財務諸表注記をご参照ください。

調整後純金利収入は、有利子資産の増加が、通年で平均162bpsあった純資金利ざやの7bpsの減少を相殺し、横ばいとなりました。

- 投資有価証券残高の増加と顧客向け貸付金その他の金銭債権の増加により、平均有利子資産は4%増加しました。総利回りは、主に、2018年を通じた世界的な金利上昇の影響(2019年下半期の金利低下によって一部相殺された)を反映し、2018年の平均と比べて16bps上昇しました。
- 平均有利子負債は顧客口座の伸びにより3%増加しました。債務に対する支払金利は、金利の変動を反映して、2018年度の平均と比べて27bps上昇しました。

純資金利ざやの7bpsの低下は、主に債務に対する利ざや圧縮圧力によるものです。

クレジットリスクの概要

	2019年度 ¹ (百万米ドル)			2018年度 ^{1,2} (百万米ドル)		増加/ (減少) %
	合計	通常事業	流動化 ポートフォリオ	合計		
総顧客向け貸付金その他の金銭債権 ³	274,306	261,216	1,769	262,985		4
うちステージ1、ステージ2	266,908	254,445	86	254,531		5
うちステージ3	7,398	6,771	1,683	8,454		(12)
予想信用損失引当金	(5,783)	(5,054)	(1,374)	(6,428)		(10)
うちステージ1、ステージ2	(779)	(838)	(4)	(842)		(7)
うちステージ3	(5,004)	(4,216)	(1,370)	(5,586)		(10)
純顧客向け貸付金その他の金銭債権	268,523	256,162	395	256,557		5
うちステージ1、ステージ2	266,129	253,607	82	253,689		5
うちステージ3	2,394	2,555	313	2,868		(17)
ステージ3担保考慮前／後不良貸付貸倒引当率(%)	68 / 85	62 / 82	81 / 95	66 / 85		2 / 0
CG(行内信用格付け)12口座(百万ドル)	1,605	1,437	86	1,523		5
アーリーアラート(百万米ドル)	5,271	4,767	-	4,767		11
投資適格企業へのエクスポージャー(%)	61	62	-	62		(1)

1 2019年度と2018年度の残高は、相当する信用減損費用とともに、支払期限が到来しているが未払いの金利を反映しています。

2 2018年度のステージ3の残高、引当金および不良貸付貸倒引当率は修正再表示されています。

3 リバースレポ契約その他類似の償却原価で保有されている担保付貸付金(2019年3月31日時点では14億6,900万ドル、2018年12月31日時点では31億5,100万ドル)を含みます。

当行グループは、ステージ3のエクスポージャーについて、認識停止中の未収利息を含めて報告するよう会計方針を変更しました。この結果、ステージ3の純資産に変動はなく、ステージ3の総エクスポージャーおよび引当金が増加します。過去の残高は修正再表示されています。詳細についてはアニュアルレポートの財務諸表注記をご参照ください。

当年度中資産の質は総じて安定的に推移し、信用減損は増加したものの、引き続き過去に例のない低水準にあり、過去数年の水準を大きく下回っています。当行グループは、地政学的な不確実性が続いていることや経済予測が悪化している中での一部の市場での大幅なボラティリティを考慮し、警戒を続けています。当行グループのポートフォリオについては、定期的にレビューとストレステストを実施し、発生する可能性のあるリスクを特定し、軽減することを図っています。当行グループの以前の流動化ポートフォリオにおけるエクスポージャー削減の取組みは2018年度に実質的に完了したため、残りのエクスポージャーは2019年度の通常事業の一部として報告されています。

総額74億ドルのステージ3の顧客向け貸付金その他の金銭債権は、2018年12月31日と比べて12%減少しました。この減少は、主に法人営業部門およびコマースバンキング部門における、返済、償却およびステージ2への格上げによるものです。これらの信用減損に陥った貸付は貸付金その他の金銭債権の総額の2.7%に相当し、2018年12月31日時点と比べて0.5パーセンテージポイント低下しました。

ステージ3の不良貸付貸倒引当率は2018年度の66%から68%に増加しました。担保考慮後の不良貸付貸倒引当率は85%と安定していました。

内部信用格付けがCG12の残高は、ジンバブエ、ザンビア、レバノンにおける政府の格付けの引下げを反映して2018年12月31日以降5%増加し、これらの国の一部の口座の格付けに影響を与えました。アーリーアラートの口座は、これまでレビュー中であつた握りの相互に非関連のお客様が2019年第4四半期に移管されたことにより、年間で11%増加しました。

投資適格企業へのエクスポージャーの割合は61%と、おおむね安定的に推移しています。

再編関連コストおよびその他の項目

	2019年度			2018年度		
	規制関連引当金 (百万米ドル)	再編関連コスト (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	規制関連引当金 (百万米ドル)	再編関連コスト (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)
営業収益	-	146	-	-	(248)	69
営業費用	(226)	(298)	-	(900)	(283)	-
信用減損	-	(2)	-	-	87	-
その他減損費用	-	(98)	(27)	-	(34)	-
関係会社利益	-	(2)	48	-	-	-
税引前(損)益	(226)	(254)	21	(900)	(478)	69

当行グループの法定ベースの業績は、資本性の損益、経営目標の達成のために行われた投資取引の成果、当期間の当行グループの通常の利益に関連して重要性の高い他の不定期かつ例外的な項目、および、経営者および投資家が各期の特別要因調整後の業績を評価する際に通常は別途計上する項目によって、調整された後の数字です。

前述したように、当行グループは、2019年度から2021年度にかけて、新たな戦略的優先事項を実行するために約5億ドルの再編関連コストが発生すると見込んでいます。2019年度に計上された2億5,400万ドルの再編関連コストは、主に、第4四半期に計上された退職手当引当金、および当行グループの船舶リース事業からの撤退に関連したクレジットコストです。2,100万ドルのその他の項目には、当行グループが44.56%の持分を売却する条件付株式売買契約を締結し、売却目的保有に分類したインドネシアにおけるジョイントベンチャー投資からの利益と、スリランカ、ネパールおよびオマーンの当行グループの子会社に関連する営業権償却損が含まれます。規制関連引当金は、主に、財務諸表の注記26に詳述されている、過去の制裁および金融犯罪の統制に関する問題に対する調査が解決した後に罰金を支払うことを定めた契約に関するものです。

バランスシートおよび流動性

	19年12月31日 (百万米ドル)	19年9月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	19年6月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	18年12月31日 (百万米ドル)	増減 ¹ %
資産							
銀行向け貸付金その他の金銭債権	53,549	60,743	(12)	59,210	(10)	61,414	(13)
顧客向け貸付金その他の金銭債権	268,523	269,703	-	263,595	2	256,557	5
その他の資産	398,326	404,354	(1)	389,699	2	370,791	7
総資産	720,398	734,800	(2)	712,504	1	688,762	5
債務							
銀行による預金	28,562	32,603	(12)	30,783	(7)	29,715	(4)
顧客口座	405,357	387,857	5	401,597	1	391,013	4
その他債務	235,818	263,644	(11)	229,685	3	217,682	8
総債務	669,737	684,104	(2)	662,065	1	638,410	5
資本	50,661	50,696	-	50,439	-	50,352	1

資本および債務合計	720,398	734,800	(2)	712,504	1	688,762	5
預貸率(%) ²	64.2%	65.6%		63.7%		63.1%	
流動性カバレッジ率(%)	144%	133%		139%		154%	

1 増減は、当報告期間と過去の報告期間を比較した数値です。

2 ストレス時に返済可能と確認された、中央銀行に保有された金額 91 億 900 万ドル(19 年 6 月 30 日時点では 68 億 3,500 万ドル、18 年 12 月 31 日時点では 74 億 1,200 万ドル、18 年 9 月 30 日時点では 71 億 7,200 万ドル)を除きます。

当行グループのバランスシートは、引き続き、健全で、流動性が高く、十分に分散されています。

- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は、主にファイナンシャルマーケット、法人向けローンおよび住宅ローンの伸びにけん引されて、2018年12月31日から5%増の2,690億ドルとなりました。
- 顧客口座は、キャッシュマネジメントの営業口座残高の増加が法人定期預金の流出によって相殺され、2018年12月31日から4%増の4,050億ドルとなりました。
- その他の資産およびその他の債務は、2018年12月31日以降、それぞれ7%と8%増加しました。その他の資産の増加は、中央銀行に対する預け金残高の減少によって一部相殺されましたが、投資有価証券およびリバースレポ取引の増加によるものです。その他の債務の増加は、取引勘定債務とレポ取引の増加を反映しています。

預貸率は2018年12月31日時点の63.1%から64.2%へわずかに増加し、年度末時点の流動性カバレッジ・レシオは144%へ10パーセンテージ・ポイント低下しましたが、最低規制要件を大幅に上回っています。

リスク加重資産

リスクの種類別	19年12月31日 (百万米ドル)	19年9月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	19年6月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	18年12月31日 (百万米ドル)	増減 ¹ %
信用リスク	215,664	218,198	(1)	220,010	(2)	211,138	2
オペレーショナルリスク	27,620	27,620	-	27,620	-	28,050	(2)
市場リスク	20,806	22,850	(9)	23,109	(10)	19,109	9
総リスク加重資産	264,090	268,668	(2)	270,739	(2)	258,297	2

1 増減は、当報告期間と過去の報告期間を比較した数値です。

総リスク加重資産(RWA)は、2018年12月31日から58億ドル(2%)増の2,641億ドルとなりました。

- 信用リスクRWAは、資産の増加の影響が、RWAの効率性、外国為替の換算、および当行グループのプリンシパルファイナンス・ポートフォリオの一部売却によって相殺され、45億ドル増の2,157億ドルとなりました。
- 市場リスクRWAは、ファイナンシャルマーケットでの取引の活発化、および一部の会計方針と会計方法の変更により、17億増の208億ドルとなりました。
- オペレーショナルリスクRWAは4億ドル減少しました。これは主に、3年間の移動平均で測定した平均収益の減少によるものです(2015年度の収益に代えてより低い2018年度の収益が算入されたため)。

総リスクRWAは、2019年度には収益とほぼ同じ増加率を示しました。有機的かつ非有機的なRWAの最適化の取組みを継続することによって、中期的に収益の成長がRWAの成長を上回ると期待されます。

資本ベースと比率

	19年12月31日 (百万米ドル)	19年9月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	19年6月30日 (百万米ドル)	増減 ¹ %	18年12月31日 (百万米ドル)	増減 ¹ %
CET1 の 資本	36,513	36,386	-	36,511	-	36,717	(1)
その他 Tier 1 証券(AT1)	7,164	7,153	-	6,612	8	6,684	7
Tier 1 資本	43,677	43,539	-	43,123	1	43,401	1
Tier 2 資本	12,288	11,401	8	11,834	4	12,295	-
総資本	55,965	54,940	2	54,957	2	55,696	-
期末時点のCET1比率(%) ²	13.8	13.5	0.3	13.5	0.3	14.2	(0.4)
暫定資本比率(%) ²	21.2	20.4	0.8	20.3	0.9	21.6	(0.4)
英国レバレッジ率(%) ²	5.2	5.1	0.1	5.3	(0.1)	5.6	(0.4)

1 増減は、当報告期間と過去の報告期間を比較した数値です。

2 増減は二時点の間の差をパーセントではなくパーセンテージ・ポイントで表示しています。

当行グループはすべての指標で規制上の要件を超え、引き続き十分な自己資本を有し、高い流動性を有しています。

当行グループの普通株式等Tier1比率(CET1)は13.8%と、2018年12月31日から39bps低下しましたが、目標レンジの13~14%の上限に近い比率です。特別要因調整後ベースでは、当年度に発生した利益が信用リスクRWAと市場リスクRWAの増加および配当金の増加により一部相殺されたことから、CET1は16bps上昇しましたが、10億ドルの株式買い戻しの影響、中華圏・北アジアにおける法人の再編関連コストおよび規制関連引当金によって相殺されました。

当行グループは、2019年5月2日から9月25日の間に、普通株式116,103,483株を総額約10億ドルで買い戻しました。買い付けられた株式は消却され、発行済株式総資本は3.5%減少しました。

取締役会は、買い戻した自己株式を消却することにより発行済普通株式数をさらに減少させるため、最大5億ドルを上限として自己株式の買戻しを行うことを決定しました。買戻しの条件は今後発表されますが、プログラムはまもなく開始され、2020年第1四半期における当行グループのCET1比率は約20bps低下すると予想されます。

当行グループの英国レバレッジ率5.2%は、Tier 1資本の増加がレバレッジエクスポージャー尺度の上昇により相殺されたことから、2018年12月31日と比べて38bpsの低下となりました。当行グループのレバレッジ比率は、最低要件である3.7%を大幅に上回っています。

当期中に当行グループのピラー2Aのバッファは2.9%から3.4%に引き上げられ、そのうち1.9%はCET1で保有される必要があります。また、英国の金融方針委員会(EPC)と香港金融管理局(HKMA)はそれぞれ、英国が2020年12月16日から1%を2%に、香港が2019年10月14日から2.5%を2%に、カウンターシクリカルバッファ比率を変更することを発表しました。カウンターシクリカルバッファ比率の変更は、当行グループのCET1最低要件に大きな影響を与えることはなく、当行グループは、引き続きCET1比率を13~14%とすることを目標としています。

取締役会は、1株当たり20セントの普通株の最終配当金を提案しており、これに中間配当金7セントを加えると、普通株の通期の配当金は1株当たり27セント、総額8億6,300万ドルとなり、通期の普通株配当金は29%増となります。

見通し

2019年第4四半期の好調な収益動向は2020年に入っても続きましたが、金利の低下、世界の経済成長の鈍化、香港経済の悪化、最近の新型コロナウイルス(Covid-19)の流行の影響により、2020年の収益増加率は、当行グループの中期的な目標値である5~7%を下回る可能性が高いと思われます。こうした逆風は一過性のものと見込まれますが、RoTE(有形資本利益率)の目標値である10%の達成には、従来の想定よりも時間がかかると考えます。

当行グループは、2015年以降毎年RoTE(有形資本利益率)を改善してきましたが、費用の増加率を上回る収益の伸びと余剰資本の株主還元継続を組み合わせ、2020年も改善を続けるよう努力します。取締役会はまもなく始まる最大5億ドル相当の株式の取得と消却を承認し、Permataの売却が完了した後、さらなる資本還元を行う可能性を検討します。

アンディ・ハルフォード
グループ最高財務責任者

2020年2月27日

スタンダードチャータードPLC –顧客セグメント別のレビュー

顧客セグメント別の特別要因調整後の業績

	2019年度					合計 (百万米ドル)
	法人営業部門 (百万米ドル)	リテール バンキング部門 (百万米ドル)	コマーシャル バンキング部門 (百万米ドル)	プライベート バンキング部門 (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	
営業収益	7,185	5,171	1,478	577	860	15,271
外部収益	7,356	4,223	1,539	329	1,824	15,271
セグメント間収益	(171)	948	(61)	248	(964)	–
営業費用	(4,361)	(3,754)	(907)	(514)	(873)	(10,409)
クレジットコスト・税引前営業（損）益	2,824	1,417	571	63	(13)	4,862
信用減損	(474)	(336)	(123)	31	(4)	(906)
その他減損費用	(32)	2	–	–	(8)	(38)
関係会社利益	–	–	–	–	254	254
特別要因調整後の税引前（損）益	2,318	1,083	448	94	229	4,172
規制関連引当金	–	–	–	–	(226)	(226)
再編関連コスト	(110)	(63)	(11)	(11)	(59)	(254)
営業権(のれん代)減損	–	–	–	–	(27)	(27)
ジョイントベンチャー（PT Bank Permata Tbk）の 利益持分	–	–	–	–	48	48
法定ベースの税引前（損）益	2,208	1,020	437	83	(35)	3,713
総資産	329,866	108,801	31,244	14,922	235,565	720,398
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有 されるものを含む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	156,599	106,570	26,686	14,821	10,078	314,754
顧客向け貸付金その他の金銭債権	111,304	106,332	25,990	14,821	10,076	268,523
損益を通じて公正価値で保有される貸付金	45,295	238	696	–	2	46,231
総債務	393,040	147,698	36,864	18,480	73,655	669,737
うち顧客口座	248,748	144,045	34,083	18,424	7,433	452,733

	2018年度					合計 (百万米ドル)
	法人営業部門 (百万米ドル)	リテール バンキング部門 (百万米ドル)	コマーシャル バンキング部門 (百万米ドル)	プライベート バンキング部門 (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	
営業収益	6,860	5,041	1,391	516	1,160	14,968
外部収益	7,055	4,493	1,570	270	1,580	14,968
セグメント間収益	(195)	548	(179)	246	(420)	–
営業費用	(4,396)	(3,736)	(923)	(530)	(879)	(10,464)
クレジットコスト・税引前営業（損）益	2,464	1,305	468	(14)	281	4,504
信用減損	(242)	(267)	(244)	–	13	(740)
その他減損費用	(150)	(5)	–	–	7	(148)
関係会社利益	–	–	–	–	241	241
特別要因調整後の税引前（損）益	2,072	1,033	224	(14)	542	3,857
規制関連引当金	(50)	–	–	–	(850)	(900)
再編関連コスト	(350)	(68)	(12)	(24)	(24)	(478)
上位債券および劣後債券の買戻益	3	–	–	–	66	69
法定ベースの税引前（損）益	1,675	965	212	(38)	(266)	2,548
総資産	308,496	103,780	31,379	13,673	231,434	688,762
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有 されるものを含む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	146,575	101,635	27,271	13,616	10,274	299,371
顧客向け貸付金その他の金銭債権	104,677	101,235	26,759	13,616	10,270	256,557
損益を通じて公正価値で保有される貸付金	41,898	400	512	–	4	42,814
総債務	369,316	140,328	37,260	19,733	71,773	638,410
うち顧客口座	243,019	136,691	34,860	19,622	2,989	437,181

法人営業部門

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	1,710	1,763	(3)	1,868	(8)	7,185	6,860	5
トランザクションバンキング	712	731	(3)	761	(6)	2,992	2,887	4
トレード	169	166	2	186	(9)	721	729	(1)
キャッシュマネジメント	459	484	(5)	487	(6)	1,929	1,825	6
セキュリティーズサービス	84	81	4	88	(5)	342	333	3
ファイナンシャルマーケット	563	519	8	715	(21)	2,617	2,328	12
外国為替	225	195	15	217	4	950	829	15
金利	158	58	172	168	(6)	664	527	26
コモディティ	31	44	(30)	34	(9)	140	168	(17)
クレジットおよび資本市場	121	80	51	164	(26)	564	312	81
キャピタル・ストラクチャリング・ディストリビューション・グループ	77	87	(11)	79	(3)	302	285	6
DVA(信用評価調整)	(72)	46	nm ⁵	14	nm ⁴	(100)	77	nm ⁴
その他の金融市場	243	9	156	39	(41)	97	130	(25)
コーポレートファイナンス ^{2,3}	308	351	(12)	251	23	1,048	1,098	(5)
レンディング・ポートフォリオ管理 ³	135	130	4	147	(8)	553	542	2
その他	(8)	32	(125)	(6)	(33)	(25)	5	nm ⁴
営業費用	(1,123)	(1,082)	(4)	(1,114)	(1)	(4,361)	(4,396)	1
クレジットコスト・税引前営業利益	587	681	(14)	754	(22)	2,824	2,464	15
信用減損	(207)	(169)	(22)	(157)	(32)	(474)	(242)	(96)
その他減損費用	(5)	(17)	71	(8)	38	(32)	(150)	79
特別要因調整後の税引前利益	375	495	(24)	589	(36)	2,318	2,072	12
規制関連引当金	-	(50)	100	-	nm ⁵	-	(50)	100
再編関連コスト	(28)	(278)	90	(105)	73	(110)	(350)	69
上位債券および劣後債券の買戻益	-	-	nm ⁴	-	nm ⁴	-	3	(100)
法定ベースの税引前利益	347	167	108	484	(28)	2,208	1,675	32
総資産	329,866	308,496	7	354,341	(7)	329,866	308,496	7
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有されるものを含む顧客向け貸付金その他の金銭債権	156,599	146,575	7	159,467	(2)	156,599	146,575	7
総債務	393,040	369,316	6	406,895	(3)	393,040	369,316	6
うち顧客口座	248,748	243,019	2	246,752	1	248,748	243,019	2
リスク加重資産	132,050	128,991	2	137,082	(4)	132,050	128,991	2
リスク加重資産の特別要因調整後利益率(%)	1.1	1.5	(40)bps	1.7	(60)bps	1.7	1.5	20bps
特別要因調整後のRoTE(有形資本利益率)(%)	5.5	7.5	(200)bps	8.4	(290)bps	8.5	7.4	110bps
費用収益比率(%)	65.7	61.4	(430)bps	59.6	(610)bps	60.7	64.1	340bps

1 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加／(減少)を示します。

2 当行グループは 2018 年 12 月に船舶オペレーティングリース事業からの撤退を決定し、以後の損益は、再編関連コストとして計上されます。過去の数値は修正再表示されていません。

3 コーポレートファイナンスとレンディング・ポートフォリオ管理の間で、いくつかのプロダクトチームの再編が行われました。過去の数値は修正再表示されています。

4 僅少

戦略的優先事項

- 当行の拠点を横断して貿易、資金、投資フローを促進するために当行のネットワークを活用し、お客様に持続的な成長をもたらすこと
- リスクコントロールを維持しつつ、バランスシートの回転速度を高め、資金調達の質を向上させることで、キャピタルライトの収益を伸ばし、質の高いリターンを生み出すこと
- 戦略的に選んだ第三者と提携し、能力の増強と新規顧客へのアクセスを図ること
- 当行の統合されたクライアントポータル、オープンバンキング、APIソリューションを通じて、複数のプロダクトにわたる真にスムーズなデジタルバンキング・エクスペリエンスをお客様に提供すること
- プロダクトのイノベーションを通じてサステナブルファイナンス商品のお客様への提供を推進し、低炭素社会への移行を可能にすること

進捗の状況

- 9%の増加となったキャピタルライト収益¹、6%増のネットワーク収益にけん引されて、収益の質は引き続き改善しており、ネットワーク関連収益が法人営業部門セグメント全体の収益の69%に寄与しています。
- 投資適格のお客様が顧客向け貸付金その他の金銭債権の57%（2018年度は63%）を占め、質の高い営業口座残高の比率がトランザクションバンキングのお客様の残高の60%（2018年度は49%）に改善するなど、バランスシートの質を維持しています。
- デジタルチャネルと顧客データアナリティクス部門の新設により、お客様のデジタル・エクスペリエンス、投資、人材の確保を強化しました。
- 約3,000件のお客様をデジタル化し、S2B NextGen²の顧客取引高を総取引高の1%から32%に増加させました。
- 拠点市場全体にわたる地政学的・マクロ経済的に厳しい情勢にもかかわらず、多様な商品と顧客ソリューションの充実によって収益が支えられ、成長を実現しています。

業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前営業利益は23億1,800万ドルと、12%増加しました。これは主に、収益の増加と慎重な費用管理によるものです。
- 特別要因調整後の営業収益71億8,500万ドルは5%増で、ファイナンシャルマーケットとキャッシュマネジメントが主要なけん引役となりました。
- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は7%増と、バランスシートのモメンタムは良好です。
- リターンの低い顧客RWAの割合は13.8%（2018年度は15.5%）でした。
- 特別要因調整後のRoTE（有形資本利益率）は8.5%へ110bps上昇しました。

¹ キャピタルライト収益とは、RWAの使用量が少ないプロダクト、または資金調達されていないプロダクトを指します。主にキャッシュマネジメントおよび外国為替商品がこの中に含まれます。
² 当社の次世代のトランザクションバンキングのデジタルプラットフォームです。

スタンダードチャータードPLC-地域別のレビュー

地域別の特別要因調整後の業績

	2019年度					合計 (百万米ドル)
	中華圏・ 北アジア (百万米ドル)	ASEAN・ 南アジア (百万米ドル)	アフリカ・ 中東 (百万米ドル)	ヨーロッパ・ 米州 (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	
営業収益	6,155	4,213	2,562	1,725	616	15,271
営業費用	(3,771)	(2,681)	(1,747)	(1,470)	(740)	(10,409)
クレジットコスト・税引前営業（損）益	2,384	1,532	815	255	(124)	4,862
信用減損	(194)	(506)	(132)	(98)	24	(906)
その他減損費用	(5)	(1)	1	-	(33)	(38)
関係会社利益	247	-	-	-	7	254
特別要因調整後の税引前利益	2,432	1,025	684	157	(126)	4,172
規制関連引当金	-	-	-	-	(226)	(226)
再編関連コスト	(138)	(34)	(18)	(34)	(30)	(254)
営業権(のれん代)減損	-	-	-	-	(27)	(27)
ジョイントベンチャー(PT Bank Permata Tbk)の 利益持分	-	48	-	-	-	48
法定ベースの税引前(損)益	2,294	1,039	666	123	(409)	3,713
総資産	277,704	149,785	59,828	220,579	12,502	720,398
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有 されるものを含む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	139,977	80,885	31,487	62,405	-	314,754
顧客向け貸付金その他の金銭債権	134,066	78,229	29,940	26,288	-	268,523
損益を通じて公正価値で保有される貸付金	5,911	2,656	1,547	36,117	-	46,231
総債務	249,004	126,213	36,144	218,794	39,582	669,737
うち顧客口座	204,286	97,459	29,280	121,708	-	452,733

	2018年度					合計 (百万米ドル)
	中華圏・ 北アジア (百万米ドル)	ASEAN・ 南アジア (百万米ドル)	アフリカ・ 中東 (百万米ドル)	ヨーロッパ・ 米州 (百万米ドル)	その他の項目 (百万米ドル)	
営業収益	6,157	3,971	2,604	1,670	566	14,968
営業費用	(3,812)	(2,711)	(1,810)	(1,453)	(678)	(10,464)
クレジットコスト・税引前営業（損）益	2,345	1,260	794	217	(112)	4,504
信用減損	(71)	(322)	(262)	(83)	(2)	(740)
その他減損費用	(110)	6	-	17	(61)	(148)
関係会社利益	205	26	-	3	7	241
特別要因調整後の税引前利益	2,369	970	532	154	(168)	3,857
規制関連引当金	-	-	-	(50)	(850)	(900)
再編関連コスト	(106)	105	(100)	(8)	(369)	(478)
上位債券および劣後債券の買戻益	-	-	-	3	66	69
法定ベースの税引前(損)益	2,263	1,075	432	99	(1,321)	2,548
総資産	269,765	147,049	57,800	201,912	12,236	688,762
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有 されるものを含む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	130,669	81,905	29,870	56,927	-	299,371
総債務	238,249	127,478	36,733	198,853	37,097	638,410
うち顧客口座	196,870	96,896	29,916	113,499	-	437,181

中華圏・北アジア

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	1,497	1,510	(1)	1,578	(5)	6,155	6,157	-
営業費用	(1,001)	(949)	(5)	(944)	(6)	(3,771)	(3,812)	1
クレジットコスト・税引前営業利益	496	561	(12)	634	(22)	2,384	2,345	2
信用減損	(54)	(43)	(26)	(70)	23	(194)	(71)	(173)
その他減損費用	-	(14)	100	3	(100)	(5)	(110)	95
関係会社利益	51	11	nm ²	43	19	247	205	20
特別要因調整後の税引前利益	493	515	(4)	610	(19)	2,432	2,369	3
再編関連コスト	(84)	(74)	(14)	(51)	(65)	(138)	(106)	(30)
法定ベースの税引前(損)益	409	441	(7)	559	(27)	2,294	2,263	1
総資産	277,704	269,765	3	273,854	1	277,704	269,765	3
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有されるものを含む顧客向け貸付金その他の金銭債権	139,977	130,669	7	134,775	4	139,977	130,669	7
総債務	249,004	238,249	5	237,881	5	249,004	238,249	5
うち顧客口座	204,286	196,870	4	190,716	7	204,286	196,870	4
リスク加重資産	85,695	81,023	6	86,367	(1)	85,695	81,023	6
費用収益比率(%)	66.9	62.8	(410)bps	59.8	(710)bps	61.3	61.9	60bps

1 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加／(減少)を示します。

2 僅少

戦略的優先事項

- お客様のクロスボーダーの取引と投資のニーズに対応するため、当行グループのネットワークを活用すること
- グレーターベイエリア、人民元、一帯一路構想、オンショア資本市場、本土の富裕層など、中国の市場開放から生じる機会の獲得と、当行グループのデジタルサービスの開発
- 香港でのマーケットポジション強化、および韓国での業績改善

進捗状況

- 中国の資本市場の開放に積極的に参加し、ボンドコネク、ストックコネク、適格国内機関投資家に対する取組みなどのチャンネルを通じて海外投資家のビジネスを支援し、Bond Connect Awardsの「トップカस्टディアン、アクティブバンク、トップディーラー」賞を受賞。ボンドコネクを通じて26%の市場シェアを保有しています。
- 香港のリテールバンキング部門は引き続き好調で、当年度中に新たに5万件以上のプライオリティー顧客を獲得しました(22%増)。アクティブな適格プライオリティー顧客も12%増加しました。
- PCCW、HKT、Ctrip Financeと提携して、2019年3月27日に香港金融管理局(HKMA)からバーチャル銀行の免許を取得し、香港の新しいバーチャル銀行スキームの下でライセンスを取得した最初のグループのひとつとなりました。
- 利益率を改善し、中国の市場開放に注力するために、韓国のフランチャイズを引き続き最適化しました。中国は域内の他市場および当行グループに最も寄与している国です。

業績ハイライト

- 香港で進行中の社会不安と米中の貿易摩擦の長期化という難しい状況にもかかわらず、収益は着実に成長し、特別要因調整後の税引前営業利益は24億3,200万ドルと、3%の増益を実現しました。費用はほぼ横ばいとなりましたが、信用減損の増加によって一部相殺されました。
- 特別要因調整後の営業収益61億5,500万ドルは為替変動の影響を除くと2%増となり、リテール預金、ファイナンシャルマーケット、ウェルスマネジメントにわたって力強い伸びを示しましたが、トレジャリー収益の減少により一部相殺されました。
- 預金の利ざやが改善し、バランスシートが力強い拡大を示したことが、(ウェルスマネジメントの不振により一部相殺されたものの)けん引要因となって、リテールバンキング部門の収益は4%増となりました。プライベートバンキング部門の収益は、好調なウェルスマネジメント部門がけん引し、27%の増加となりました。法人営業部門とコマーシャルバンキング部門の収益はそれぞれ2%増加しましたが、この主な要因は、(コーポレートファイナンスとファイナンシャルマーケットの中でDVAの悪化によって一部相殺されたものの)キャッシュマネジメントとファイナンシャルマーケットが好調であったことでした。
- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は7%増、顧客口座は4%増と、バランスシートの拡大基調は続きました。

ASEAN・南アジア

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	992	940	6	1,085	(9)	4,213	3,971	6
営業費用	(718)	(685)	(5)	(671)	(7)	(2,681)	(2,711)	1
クレジットコスト・税引前営業利益	274	255	7	414	(34)	1,532	1,260	22
信用減損	(250)	(150)	(67)	(172)	(45)	(506)	(322)	(57)
その他減損費用	(1)	(1)	-	-	nm ²	(1)	6	(117)
関係会社利益	-	12	(100)	-	nm ²	-	26	(100)
特別要因調整後の税引前利益	23	116	(80)	242	(90)	1,025	970	6
再編関連コスト	(19)	(45)	58	1	nm ²	(34)	105	(132)
法定ベースの税引前(損)益	13	-	nm ²	12	8	48	-	nm ²
総資産	17	71	(76)	255	(93)	1,039	1,075	(3)
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有されるものを含む顧客向け貸付金その他の金銭債権	149,785	147,049	2	150,947	(1)	149,785	147,049	2
総債務	80,885	81,905	(1)	83,866	(4)	80,885	81,905	(1)
うち顧客口座	126,213	127,478	(1)	127,451	(1)	126,213	127,478	(1)
リスク加重資産	97,459	96,896	1	97,478	-	97,459	96,896	1
費用収益比率(%)	88,942	87,935	1	91,668	(3)	88,942	87,935	1
営業収益	72.4	72.9	50bps	61.8	(1,060bps)	63.6	68.3	470bps

1 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加／(減少)を示します。

2 僅少

戦略的優先事項

- 当行グループの国際的ネットワークの強みを生かし、成長著しいASEAN・南アジア回廊に広がるお客様のクロスボーダーの取引と投資活動を支援すること
- 主要市場(シンガポール、インド、マレーシア、バングラデシュ)でお客様に対して総合的な提案を行い、インドネシア、ベトナムなど他の成長性の高い市場でターゲットを絞ったサービスを提供すること
- お客様のエクスペリエンスを高め、規模の経済の効果を享受するために、テクノロジーとデジタルサービスへの投資を継続すること
- 資本効率の改善とリターンの高い事業への投資の強化
- インドとインドネシアのフランチャイズの再構築を継続し、利益率を改善すること

進捗状況

- 収益と営業利益が幅広く力強い伸びを示し、すべての顧客セグメントと当行グループの大半の市場が前年よりも成長しました。
- プライオリティバンキングの収益は2桁成長となり、差別化された提案とアドバイザー中心のアプローチにより、1万2,000人の新規顧客を獲得しました。
- ネットワーク・バンカーへの投資とオーダーメイドの顧客ソリューションの提供により、グローバルサブシディアリービジネスは2桁台の伸びを示しました。
- 即時の顧客オンボーディングとサービスのデジタル化によって、生産性が改善され、リテールバンキング部門のお客様によるデジタルサービスの利用が促進されました。
- 当行グループの最適化市場における着実な進展: インドにおける収益は2桁台の伸びをみせ、費用収益比率は65%に改善しました。インドネシアは、当行グループがウェルスマネジメントとフロー・ビジネスに軸足をシフトさせる中で、収益は5%の成長を示しました。

業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前営業利益は、6%の増収とコストの適切な管理に支えられ、6%増の10億2,500万ドルとなりましたが、これは信用減損の増加によって相殺されました。シンガポールは当行グループの最大の利益寄与国であり、33%の成長を達成しました。
- 特別要因調整後の営業収益42億1,300万ドルは6%増で、法人営業部門の収益成長率は2桁台、コマースバンキング部門、リテールバンキング部門およびプライベートバンキング部門は1桁台後半の伸びを示しました。

- リテールの定期預金と普通預金は11%増加、トランザクションバンキング部門のキャッシュの債務は12%増加し、当行グループは、資金コストを最適化するために法人定期預金を減少させました。リスク加重資産の増加は1%に抑えられました。

アフリカ・中東

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	605	624	(3)	617	(2)	2,562	2,604	(2)
営業費用	(454)	(446)	(2)	(443)	(2)	(1,747)	(1,810)	3
クレジットコスト・税引前営業利益	151	178	(15)	174	(13)	815	794	3
信用減損	(56)	(137)	59	(27)	(107)	(132)	(262)	50
その他減損費用	1	-	nm ²	-	nm ²	1	-	nm ²
特別要因調整後の税引前利益	96	41	134	147	(35)	684	532	29
再編関連コスト	(11)	(50)	78	(5)	(120)	(18)	(100)	82
法定ベースの税引前(損)益	85	(9)	nm ²	142	(40)	666	432	54
総資産	59,828	57,800	4	57,696	4	59,828	57,800	4
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有 されるものを含む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	31,487	29,870	5	29,243	8	31,487	29,870	5
総債務	36,144	36,733	(2)	35,995	-	36,144	36,733	(2)
うち顧客口座	29,280	29,916	(2)	28,958	1	29,280	29,916	(2)
リスク加重資産	49,244	53,072	(7)	49,865	(1)	49,244	53,072	(7)
費用収益比率(%)	75.0	71.5	(350)bps	71.8	(320)bps	68.2	69.5	130bps

1 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加／(減少)を示します。

2 僅少

戦略的優先事項

- ベスト・イン・クラスのストラクチャリングおよびファイナンスのソリューションを提供し、お客様のイニシャチブを通じてオリジネーションを行うこと
- 差別化された国際的なネットワークと富裕層のお客様とのビジネスの成長を加速させるための投資
- 中核市場でのマーケットシェアを守り成長させるために、リテールバンキング部門において、市場をリードするデジタル化のイニシャチブに投資すること。ネットワークの再調整とストラクチャーの合理化を目的としたリテールビジネス改革の取組みを継続すること
- 利益率の向上に継続的に注力し、リスクを低下させ、収益の質を向上させること

進捗状況

- 域内の多くの重要な取引は、強力な顧客基盤を反映したものです。
- ネットワーク収益は9%増加し、当行グループのグローバル・サブシディアリービジネスは3%成長しました。
- 2018年上半期にデジタル・オンリーの銀行をコートジボワールで順調に立ち上げた後、さらに8つの市場(ウガンダ、タンザニア、ガーナ、ケニヤ、ジンバブエ、ボツワナ、ザンビア、ナイジェリア)に拡大しました。
 - この9つの市場で獲得したお客様の件数は3倍となりました。
 - ほとんどの市場で口座の資金調達金利は比較的健全であり、お客様からのフィードバックは良好です。
 - 支店に行かなくても口座が開設できサービスが受けられる実質的な「ゼロタッチ」のプラットフォームです。
 - この効率性を利用して、ターゲットを絞った支店の集約化を行い、過去2年間で支店数を3分の1削減することができました。
- 地政学的、マクロ経済的な逆風が続いているにもかかわらず、資産の質の改善と堅実なリスク規律が信用減損の減少につながっています。
- コストの効率化により、景気の局面にかかわらず投資を継続することが可能になりました。

業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前営業利益は6億8,400万ドルと、2%の減収により一部相殺されたものの、経費の減少と信用減損の改善により、29%の増益を達成しました。
- 特別要因調整後の営業収益は2%減の25億6,200万ドルとなりましたが、為替変動の影響を除くと3%の増収でした。地域全体でファイナンシャルマーケットが好調であったためです。中東、北アフリカ、パキстанは横ばい、アフリカは3%減でした。

- ファイナンシャルマーケットとコーポレートファイナンスの好業績は、リテールバンキング部門の利ざや圧縮とUAEにおけるウェルスマネジメント部門の不振によって相殺されました。
- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は5%増、顧客口座は2%減となりました。

ヨーロッパ・米州

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	464	409	13	467	(1)	1,725	1,670	3
営業費用	(365)	(346)	(5)	(390)	6	(1,470)	(1,453)	(1)
クレジットコスト・税引前営業利益	99	63	57	77	29	255	217	18
信用減損	(17)	(11)	(55)	(15)	(13)	(98)	(83)	(18)
その他減損費用	-	-	nm ²	-	nm ²	-	17	(100)
関係会社利益	-	-	nm ²	-	nm ²	-	3	(100)
特別要因調整後の税引前利益	82	52	58	62	32	157	154	2
規制関連引当金	-	(50)	100	-	nm ³	-	(50)	100
再編関連コスト	(13)	(1)	nm ²	(6)	(117)	(34)	(8)	nm ²
上位債券および劣後債券の買戻益	-	-	nm ²	-	nm ³	-	3	(100)
法定ベースの税引前利益	69	1	nm ²	56	23	123	99	24
総資産	220,579	201,912	9	240,925	(8)	220,579	201,912	9
うち「損益を通じて公正価値で(FVTPL)」保有されるものを含む顧客向け貸付金その他の金銭債権	62,405	56,927	10	70,686	(12)	62,405	56,927	10
総債務	218,794	198,853	10	244,799	(11)	218,794	198,853	10
うち顧客口座	121,708	113,499	7	131,082	(7)	121,708	113,499	7
リスク加重資産	43,945	40,789	8	44,423	(1)	43,945	40,789	8
費用収益比率(%)	78.7	84.6	590bps	83.5	480bps	85.2	87.0	180bps

1 増減は改善／(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加／(減少)を示します。

2 僅少

戦略的優先事項

- 引き続き国際的な事業法人および金融機関の新規顧客を獲得し、既存および新規の顧客との関係を深め、ネットワーク内のより多くの市場でバンキングサービスを提供し、世界で最も急成長し最も可能性の大きい経済につなげていくこと
- アジアおよびアフリカとの貿易回廊を活用した大陸ヨーロッパでのビジネスの拡大
- 資本効率の向上、強固なリスク監視体制の維持、資金調達基盤のさらなる質の向上
- ロンドンおよびジャージーでのプライベートバンキング部門のフランチャイズと運用資産の拡大
- 新しい電子商取引ベースの産業が国際的に成長する中で、当行グループのネットワーク能力を活用すること

進捗状況

- ターゲットとする法人営業部門のプライオリティ顧客からのビジネスのシェアが著しく改善し、「トップ100」、「ネクスト100」、「ニュー90」の顧客からの収益が9%増加しました。
- 中華圏、ASEAN、南アジアの主要回廊で成長を続け、ヨーロッパおよび米州の顧客から高いネットワーク利益が得られました。
- スタンダードチャータード銀行AG(ドイツ)はすでに稼働しており、プレグジットをめぐるあらゆるシナリオにおいて、当行グループのお客様をサポートする態勢が整っています。
- サステナブルファイナンスのビジネスを開始し、新興市場にフォーカスした初のサステナブル債券を発行しました。

業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前利益は、(費用とクレジットコストの増加により一部相殺されたものの)収益の増加によって2%改善し、1億5,700万ドルとなりました。
- 特別要因調整後の営業収益17億2,500万ドルは、主にフィナンシャルマーケットにおけるセールスとトレーディング実績の改善、およびキャッシュとトレジャリーにおける収益の増加により、3%の増加となりました。また、当行グループ自身の信用リスクの改善を理由としたDVA(信用評価調整)の変動による、前年同期比1億800万ドルの減収がありました。
- ヨーロッパ・米州顧客が生み出したがネットワークの他の地域で計上された収益が6%増加しました。
- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は前年同期比10%、顧客口座は7%増加しました。

その他の項目(地域)

	19年 第4四半期 (百万米ドル)	18年 第4四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年 第3四半期 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)	19年度 (百万米ドル)	18年度 (百万米ドル)	増減 ¹ (%)
営業収益	39	112	(65)	231	(83)	616	566	9
営業費用	(401)	(410)	2	(53)	nm ²	(740)	(678)	(9)
クレジットコスト・税引前営業(損)益	(362)	(298)	(21)	178	nm ²	(124)	(112)	(11)
信用減損	4	9	(56)	5	(20)	24	(2)	nm ²
その他減損費用	(12)	(6)	(100)	(8)	(50)	(33)	(61)	46
関係会社利益	1	3	(67)	2	(50)	7	7	-
特別要因調整後の税引前(損)益	(369)	(292)	(26)	177	nm ²	(126)	(168)	25
規制関連引当金	-	(850)	100	(22)	100	(226)	(850)	73
再編関連コスト	10	(222)	105	(62)	116	(30)	(369)	92
上位債券および劣後債券の買戻益	-	-	nm ³	-	nm ²	-	66	(100)
営業権(のれん代)減損	(27)	-	nm ³	-	nm ²	(27)	-	nm ²
法定ベースの税引前(損)益	(386)	(1,364)	72	93	nm ²	(409)	(1,321)	69
総資産	12,502	12,236	2	11,378	10	12,502	12,236	2
総債務	39,582	37,097	7	37,979	4	39,582	37,097	7
リスク加重資産	(3,736)	(4,522)	17	(3,655)	(2)	(3,736)	(4,522)	17
費用収益比率(%) (英国銀行税を除く)	138.5	76.8	(6,170)bps	22.9	(11,560)bps	63.8	62.5	(130)bps

1 増減は改善/(悪化)を示し、ただし資産、債務、リスク加重資産については増加/(減少)を示します。

2 僅少

業績ハイライト

- ヘッジの非有効性の好転によって相殺されたものの、対外債務費用が増加し、内部資本コストも増加しました。

主要市場別の特別要因調整後の業績

	2019年度								
	香港 (百万米ドル)	韓国 (百万米ドル)	中国 (百万米ドル)	シンガポール (百万米ドル)	インド (百万米ドル)	インドネシア (百万米ドル)	UAE (百万米ドル)	英国 (百万米ドル)	米国 (百万米ドル)
営業収益	3,755	972	872	1,639	1,041	273	617	762	759
営業費用	(1,934)	(769)	(666)	(986)	(672)	(180)	(423)	(678)	(587)
クレジットコスト・税引前営業利益	1,821	203	206	653	369	93	194	84	172
信用減損	(111)	(15)	(81)	(91)	(290)	(87)	(48)	(33)	(63)
その他減損費用	(5)	1	-	-	-	-	-	-	-
関係会社利益	-	-	247	-	-	-	-	-	-
特別要因調整後の税引前利益	1,705	189	372	562	79	6	146	51	109
使用総資産	159,725	54,408	30,293	85,155	28,163	4,795	20,301	150,103	60,373
うち「損益を通じて公正価値で (FVTPL)」保有されるものを含 む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	77,277	34,469	14,772	45,951	15,674	2,098	10,406	42,179	17,038
使用総債務	149,703	47,420	27,005	80,006	18,437	3,188	12,905	142,804	66,357
うち顧客口座	123,330	38,533	21,797	60,821	13,800	2,320	10,078	82,036	34,733
費用収益比率(%)	51.5	79.1	76.4	60.2	64.6	65.9	68.6	89.0	77.3

	2018年度								
	香港 (百万米ドル)	韓国 (百万米ドル)	中国 (百万米ドル)	シンガポール (百万米ドル)	インド (百万米ドル)	インドネシア (百万米ドル)	UAE (百万米ドル)	英国 (百万米ドル)	米国 (百万米ドル)
営業収益	3,752	1,009	821	1,547	949	260	637	819	667
営業費用	(1,944)	(797)	(675)	(1,009)	(677)	(179)	(453)	(671)	(621)
クレジットコスト・税引前営業利益	1,808	212	146	538	272	81	184	148	46
信用減損	(57)	(1)	(30)	(115)	(130)	(39)	(196)	(51)	(36)
その他減損費用	(109)	1	-	-	(1)	-	-	17	-
関係会社利益	-	-	205	-	-	26	-	-	-
特別要因調整後の税引前(損)益	1,642	212	321	423	141	68	(12)	114	10
使用総資産	153,372	51,306	30,272	81,882	29,886	4,990	19,847	136,967	48,706
うち「損益を通じて公正価値で (FVTPL)」保有されるものを含 む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	71,971	33,435	12,894	46,342	16,567	2,536	10,749	41,248	13,464
使用総債務	139,332	45,347	27,158	80,200	20,554	3,110	13,679	148,041	42,301
うち顧客口座	116,999	36,894	21,801	58,415	16,306	2,061	10,517	93,096	16,218
費用収益比率(%)	51.8	79.0	82.2	65.2	71.3	68.8	71.1	81.9	93.1

2019年第4四半期

	香港 (百万米ドル)	韓国 (百万米ドル)	中国 (百万米ドル)	シンガポール (百万米ドル)	インド (百万米ドル)	インドネシア (百万米ドル)	UAE (百万米ドル)	英国 (百万米ドル)	米国 (百万米ドル)
営業収益	943	220	206	347	275	57	140	214	200
営業費用	(510)	(190)	(171)	(260)	(175)	(47)	(102)	(136)	(141)
クレジットコスト・税引前営業利益	433	30	35	87	100	10	38	78	59
信用減損	(53)	(3)	(14)	(47)	(181)	(7)	(32)	2	(19)
その他減損費用	-	1	-	-	-	-	-	-	-
関係会社利益	-	-	50	-	-	-	-	-	-
特別要因調整後の税引前(損)益	380	28	71	40	(81)	3	6	80	40
使用総資産	159,725	54,408	30,293	85,155	28,163	4,795	20,301	150,103	60,373
うち「損益を通じて公正価値で (FVTPL)」保有されるものを含 む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	77,277	34,469	14,772	45,951	15,674	2,098	10,406	42,179	17,038
使用総債務	149,703	47,420	27,005	80,006	18,437	3,188	12,905	142,804	66,357
うち顧客口座	123,330	38,533	21,797	60,821	13,800	2,320	10,078	82,036	34,733
費用収益比率(%)	54.1	86.4	83.0	74.9	63.6	82.5	72.9	63.6	70.5

2018年第4四半期

	香港 (百万米ドル)	韓国 (百万米ドル)	中国 (百万米ドル)	シンガポール (百万米ドル)	インド (百万米ドル)	インドネシア (百万米ドル)	UAE (百万米ドル)	英国 (百万米ドル)	米国 (百万米ドル)
営業収益	965	244	185	315	259	60	128	191	171
営業費用	(492)	(192)	(162)	(254)	(163)	(43)	(116)	(178)	(142)
クレジットコスト・税引前営業利益	473	52	23	61	96	17	12	13	29
信用減損	(39)	(9)	(14)	(37)	(77)	(17)	(91)	(8)	-
その他減損費用	(13)	1	-	-	-	-	-	-	-
関係会社利益	-	-	11	-	-	12	-	-	-
特別要因調整後の税引前(損)益	421	44	20	24	19	12	(79)	5	29
使用総資産	153,372	51,306	30,272	81,882	29,886	4,990	19,847	136,967	48,706
うち「損益を通じて公正価値で (FVTPL)」保有されるものを含 む顧客向け貸付金その他の金 銭債権	71,971	33,435	12,894	46,342	16,567	2,536	10,749	41,248	13,464
使用総債務	139,332	45,347	27,158	80,200	20,554	3,110	13,679	148,041	42,301
うち顧客口座	116,999	36,894	21,801	58,415	16,306	2,061	10,517	93,096	16,218
費用収益比率(%)	51.0	78.7	87.6	80.6	62.9	71.7	90.6	93.2	83.0

【参考訳に関するご留意事項】

この資料は、スタンダードチャータード銀行東京支店(以下、「当行」と言います。)が、お客様の便宜のために、英語その他の言語の情報を日本語に翻訳し、提供させていただいております。従いまして、当行は、この資料に記載された情報につきまして、独自の検証を行っておりません。専門用語のみならず、翻訳の正確性も保証しておりません。英文資料が正文であり、英文資料と翻訳との間で齟齬がある場合には、英文資料が全てにおいて優先します。